

◎ ルートミュージアム（軍港資料館）の整備について

1 ルートミュージアムの整備

日本近代化の礎となった横須賀の歴史を伝える中核拠点として、ヴェルニー公園内にティボディエ邸を活用したガイダンスセンターを整備し、併せて、日本遺産構成文化財をはじめとした市内に点在する近代化遺産などをサテライトとして位置づけ、必要な整備を進めることにより、市内全体を軍港資料館として捉えたルートミュージアムを構築します。

中核拠点のガイダンスセンターは、サテライトを案内する機能を持たせ、サテライトへ周遊させるためのルートミュージアムの仕組みづくりを行うことで、新たな周遊ルートを創出し、集客の促進を図ります。

2 （仮称）横須賀市近代遺産ガイダンスセンターについて

（1）中核拠点施設

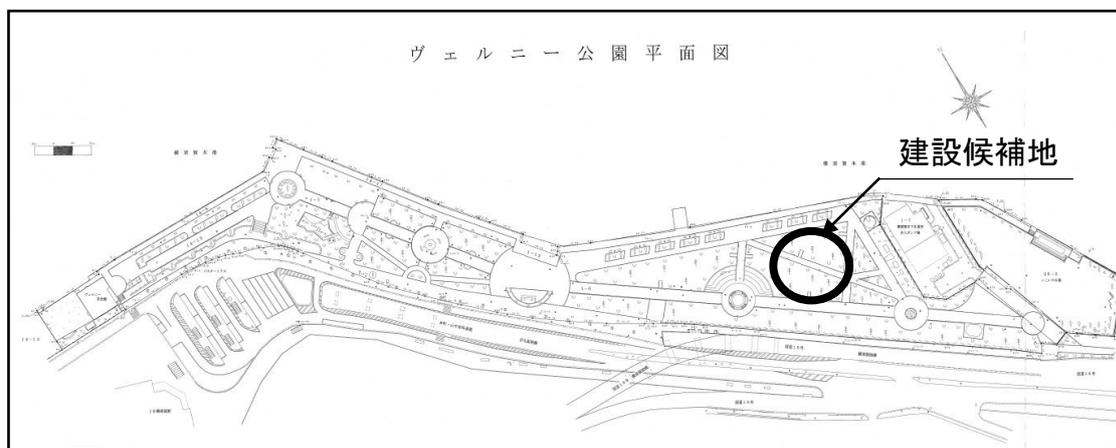
ペリー来航から始まる日本の近代化の中で重要な役割を果たした横須賀の歴史をわかりやすく伝え、旧横須賀製鉄所（造船所）を手掛けたフランス人技師であるヴェルニーやティボディエのゆかりの地であるヴェルニー公園内に、ティボディエ邸の外観を模した中核拠点施設を現代工法で建設します。

VR（Virtual Reality の略）等の最新技術による歴史映像体験や建物部材の実物展示を行うことで、来館者に歴史を身近に感じていただくとともに、市内広域に点在する近代遺産の情報等も合わせて提供します。

なお、施設の運営については、開館時間やガイド機能を含めた管理運営体制など軍港資料館等検討部会で検討中です。

【場所】

ヴェルニー公園内の下図の位置を建設候補地としています。



【規模】

- ・ 建築面積：200 m²超
- ・ 階層：1階平屋、鉄骨造

【中核拠点イメージ】



【施設計画】

- ・ ガイダンスシアター

横須賀の近現代史の紹介を VR 等の最新映像技術を活用して体験学習していただくと同時に、日本遺産構成文化財などのサテライトの魅力伝えるものとしします。

- ・ テーマ展示コーナー

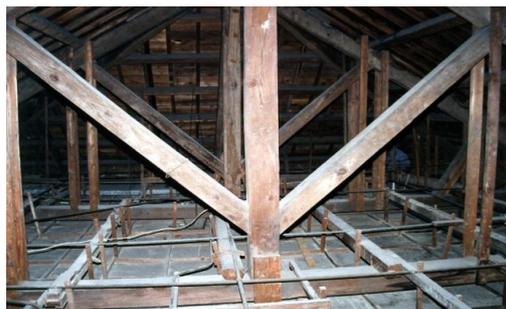
日本の近代化の中心であった横須賀の歴史や、横須賀から日本中へと広がり、現代にもつながる技術や文化をタッチパネルディスプレイ等により、来館者が自由に閲覧できるものとしします。

- ・ ティボディエ邸部材展示

ティボディエ邸の解体時から保存していた部材を活用し、室内の壁面に建物の特徴であった「木骨れんが造」の工法を再現するほか、屋根裏に建設当時のトラス構造を再現して展示します。



(木骨れんが造の壁面)



(屋根裏のトラス構造)

(2) テーマ展示

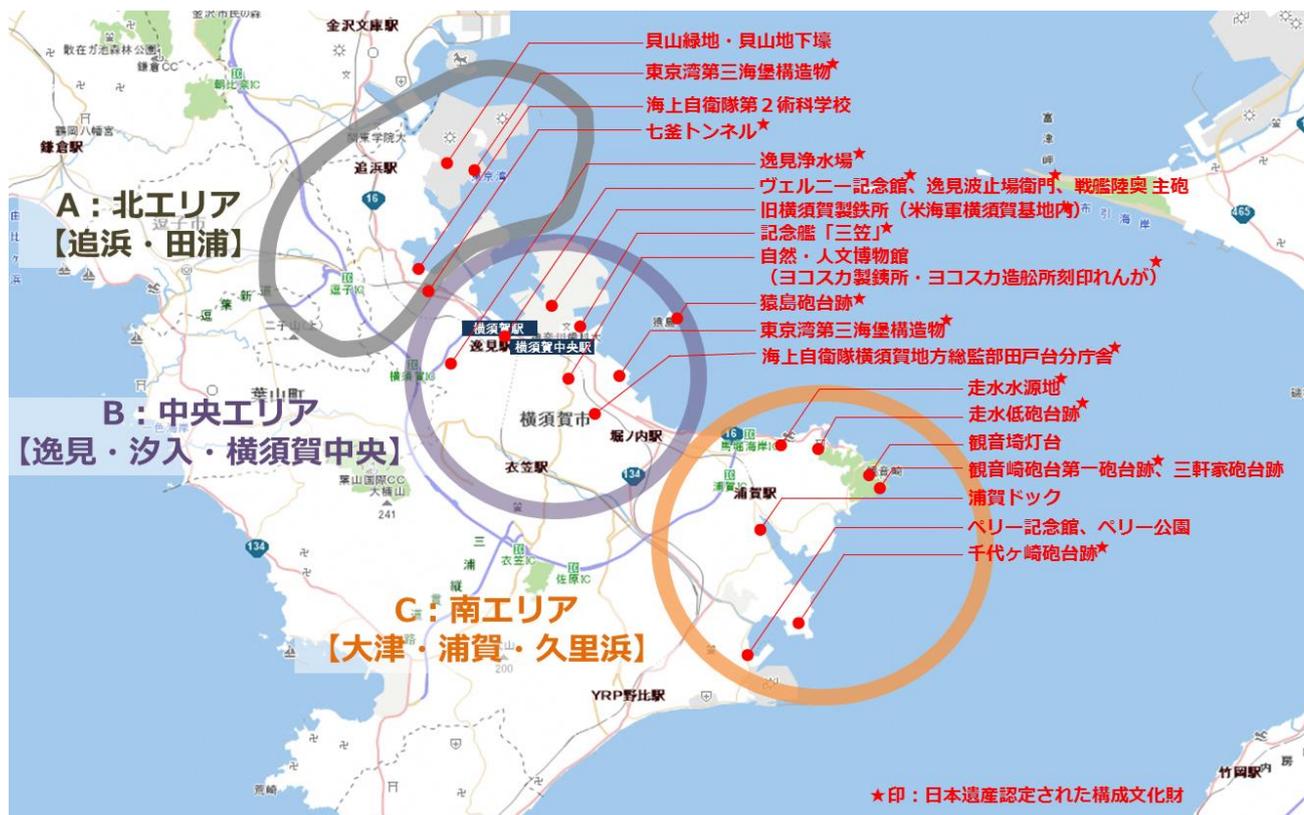
横須賀の近代から現代までの歩みとともに、サテライトへ誘うための興味を惹く画像映像により、以下の3つのテーマを定めて紹介していきます。

- ① 技術の発展と横須賀
- ② 旧軍港都市の母体、横須賀
- ③ 横須賀が育んだ都市と文化

3 サテライトについて

(1) 横須賀市におけるサテライトの状況

日本遺産構成文化財をはじめとした市内に点在する近代化遺産などの歴史文化資源（サテライト）は、市内広域に分布していますが、それぞれの歴史文化資源が、北エリア（追浜・田浦）、中央エリア（逸見・汐入・横須賀中央）、南エリア（大津・浦賀・久里浜）に分かれて集中しています。



(2) サテライトの候補

A 北エリア

- ・七釜トンネル【日本遺産構成文化財】
- ・東京湾第三海堡構造物【日本遺産構成文化財】
- ・貝山緑地・貝山地下壕
- ・海上自衛隊第2術科学校

B 中央エリア

- ・旧横須賀製鉄所（米海軍横須賀基地1号～6号ドック）【日本遺産構成文化財】
- ・ヴェルニー記念館（スチームハンマー）【日本遺産構成文化財】
- ・逸見波止場衛門【日本遺産構成文化財】
- ・逸見浄水場【日本遺産構成文化財】
- ・記念艦「三笠」【日本遺産構成文化財】

- ・猿島砲台跡【日本遺産構成文化財・国指定史跡】
- ・横須賀市自然・人文博物館（ヨコスカ製鋳所・ヨコスカ造船所刻印れんが）
【日本遺産構成文化財】
- ・海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎【日本遺産構成文化財】
- ・東京湾第三海堡構造物【日本遺産構成文化財】
- ・戦艦陸奥の主砲

C 南エリア

- ・走水水源地【日本遺産構成文化財】
- ・走水低砲台跡【日本遺産構成文化財】
- ・観音崎砲台第一砲台跡【日本遺産構成文化財】
- ・千代ヶ崎砲台跡【日本遺産構成文化財・国指定史跡】
- ・観音崎灯台
- ・三軒家砲台跡
- ・浦賀ドック
- ・ペリー記念館・ペリー公園

(3) 横須賀再興プランに掲載されているサテライト施設

サテライトについては、市内に多く点在している中、既に整備がされている三笠公園やヴェルニー公園のほか、横須賀再興プランに掲載されている下記のサテライト4か所の整備を優先して進めているところです。

今後、第二海堡、田戸台分庁舎、貝山地下壕、観音崎や浦賀地域などに点在する歴史遺産について、整備の進捗状況に合わせて順次サテライト化するべく検討を進めます。

① 猿島砲台跡

- ・史跡整備関連調査（教育委員会）
 - H30：調査、基本計画・基本設計
 - H31：調査、実施設計
 - H32：調査、工事

② 走水低砲台跡

- ・公園施設の整備（環境政策部）
 - H32：樹木剪定、転落防止柵、ベンチ、説明板、休憩施設の設置

③ 千代ヶ崎砲台跡

- ・史跡整備関連調査（教育委員会）
 - H30：調査、基本計画・基本設計

H31：調査、実施設計

H32：調査、工事

④ ペリー公園、ペリー記念館

- ・駐車場整備に向けた検討および設備の充実（環境政策部）

（４）サテライトにおける VR 等活用事業

内閣府の地方創生推進交付金を活用したサテライトの VR 等活用事業を平成 30 年度より開始し、現在、委託業者を選定したところです。

平成 30 年度に旧横須賀製鉄所を、平成 31 年度に浦賀・久里浜へのペリー来航をテーマにしたデジタルコンテンツ及びアプリケーションを制作することで、スマートフォンなどのモバイルデバイスを活用した VR などによる映像を閲覧するだけでなく、GPS 機能も活用して現在地情報と周辺スポットを地図上に表示させることにより、確実に行きたいスポットを巡ることができます。また、多言語仕様の文字表示や音声ガイダンスにも対応します。

なお、このデジタルコンテンツを中核拠点施設のガイダンスシアターでも二次活用することも考えています。

（５）ルート周遊・集客の機能強化について

中核拠点施設からサテライトへとつなぐルートの周遊・集客の機能強化については、以下の 5 つを中心に検討しています。

- ① サテライトをつなぐ新たなバスツアーの造成
- ② デザインサイクルスタンドの設置（9 月定例議会補正予算上程）
- ③ シェアレンタサイクルの活用
- ④ レンタカーを活用したツアーの造成
- ⑤ 観光タクシーの活用

4 資料収集・保存・研究・活用拠点について

現状、資料の収集・保存・調査研究・活用機能は、「自然・人文博物館」に集約する方向で検討していますが、そのためには博物館内収蔵スペースの確保、既存施設などの空きスペース等の確保について、引き続き検討を進めて教育委員会と協議していきます。

5 スケジュール

別紙のとおり

		平成30年度(2018年度)												平成31年度(2019年度)												平成32年度(2020年度)																							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
議会報告		↔												↔																																			
事業計画を含む調査委託		←																								→																							
中核拠点		基本設計												建築設計												建築工事																							
		地盤調査												展示設計												展示製作																							
サテライト	猿島砲台跡	-----												ルートミュージアムに必要な機能強化、充実												本格的な運用開始																							
	走水低砲台跡	-----												ルートミュージアムに必要な機能強化、充実												本格的な運用開始																							
	千代ヶ崎砲台跡	-----												ルートミュージアムに必要な機能強化、充実												本格的な運用開始																							
	ペリー公園・ペリー記念館	ルートミュージアムに必要な機能強化、充実												活用可能なサテライトによる試験的な周遊ルートの実施												本格的な運用開始																							
その他	情報板																									調整・工事・設置												本格的な運用開始											
	デザインサイクルスタンド	※1 調整・工事・設置												本格的な運用開始																																			
	VR	プロポーザル・契約												コンテンツ制作および試験的な活用実施												本格的な運用開始																							
	レンタサイクルマップ	←												本格的な運用開始、機能強化、充実												→																							

※1 平成30年度のデザインサイクルスタンドの調整・工事・設置は、当初(H30.3月)のスケジュールでは平成31年度としていた。